

## Departure

English Expression

# 料理人の心に火をつける教科書 *Departure English Expression I* *Revised*

加藤美枝



本稿では、新科目だった「英語表現 I」を *Departure I* を使ってどう展開したか、どんな成果があったか、そして改訂版 *Departure I* では 2 巡目となったこのカリキュラムに対し、どんな試みが可能になるか、を述べていきたい。

### ✔ *Departure I* を選んだポイントとその成果

#### ① 明確な目的と適切な scaffolding

「使うための文法知識」を習得する、という明確な主張のある教科書だという理由で *Departure I* が採択された。レッスンの最後にはまとまったものを書き、発表する、というこのルーティーンのおかげで、全ての生徒が 100 語程度難なく書くようになった。高校入試で課せられる数行の自由英作文にも苦勞していた 1 年前の生徒たちを考えると、大きな成果といえる。それを可能にしたのは、出口活動に至るまでに入念に仕組まれた足場掛け (scaffolding) だと思う。生徒はそのレッスンの目標文法を使いながら、最初のレッスンから、無理なく書くことができていた。モデルパラグラフに沿って、テンプレートを埋めていけば自然に作品ができる仕組みだが、出来上がったものは生徒のオリジナルであり、自分の作品として、自信を持って発表をしていた。

前半の 3 ページに提示された体温のある例文も準備段階の足場として機能した。表現活動において、モデル文の内容は生徒の作品に大きく影響する。生徒の興味関心を引くようなモデルを提示されたとき、生徒の「書きたい」意欲は刺激される。例文が目標文法・トピックに全て関連があ

る、というのはもちろんだが、読解・聴解用のまとまった例文には、トピックと関連した語句が散りばめられ、また知的好奇心をくすぐる内容になっている。それまでの「文法演習」の授業にはない膨らませ方ができたと思う。

#### ② 授業とパフォーマンス・テストの関連

パラグラフ・ライティングを定期考査に含め、それとは別に、年 4 回スピーキング・テストを行った。各ページに設けられたペアワーク等のインタラクティブな活動に沿って、生徒が事前に準備できる部分とその場で対応する部分を盛り込んだ内容にした。どちらも毎時間の授業で行った活動に多少変化を持たせたものだったので、作成する側も受ける側にも大きな負担もなくなってきたと思う。

#### ③ 授業力の向上

「英語表現」という新科目は、担当職員を団結させた。授業者の創造力で様々な料理が可能な部分が多く、自分でハンドアウトを作るのも、同僚が作るのを見るのも楽しかった。1 年目は試行錯誤の連続だったが、2 年目に引き継いだ担当教諭らの作ったハンドアウトは素晴らしく、ここで披露できないのが残念だ。

#### ④ 英語表現 I その後

2 年生になってもプレゼンテーションやディベート等を行ったが、生徒の発信力は衰えず、内容に鋭さ、専門性が加わり、授業に表現活動を盛り込むことは当然になってきた。

一方、文法演習の授業を 1, 2 年で行わなかったことに対し、心配する声も上がった。模擬試験の文法的知識を問う問題に苦戦を強いられたが、

3年になってから徐々に克服し、センター試験の結果も良好で正直ほっとした。また、県から指定を受けて行った TOEFL の結果は良く、英語検定でも好成績を上げている。

### ✧ *Departure I Revised* でさらに可能になること

教科書作成という責任の重い仕事に関わり、この2年間本当にたくさんのことを学ばせていただけたことに感謝している。私の役どころは「普通の英語教師」が「質の高い授業」を提供できるような教科書になるよう、現場の視点を伝えることだったと思う。*Departure I* の目指すところが変わりはないが、さらにこんなことができるのでは、という点について述べたい。

#### ①レッスンの目的を可視化

現行版も同様のコンセプトで作られているが、各レッスンの最初に Can-Do を確認することで、「ここでは何ができるようになるか」ということについて、より明確な意識づけができると思う。

#### ②自然で効果的な導入

レッスンの内容と関連のある small talk は warm-up として最適である。またこの導入部が、出口活動にも関連しており、レッスン全体を緩急のある自然な流れで運ぶことができる。

#### ③多様な例文

現行版では Expressions の例文が少ない、と指摘する同僚もいた。改訂版ではかなりその点はカバーできていると思う。量以上に英文の中身も深い。単に目標文法を押さえるだけでなく、一文一文に背景があるので、重くならない程度に内容を膨らませることで、文法説明に終わらない展開にできる。

#### ④文脈のある演習問題

Get Ready to Express Yourself の②は、文脈の中でどう目標文法を使うかを問う問題である。巻末に日本語の訳文が掲載されているが、英文のまま解釈し答えられるようにしたい。また、ここを暗唱させるのもいいかな、と今は考えている。

以前は Expressions の例文を暗唱させていたが、文脈の中で押さえたほうが、目標文法の使い方をイメージしやすいし、Write a Paragraph の準備にもなるからである。

#### ⑤各ページのスピーキング活動

Warm-up, Express Yourself, Read Up, Speak Up, ひとつひとつは軽い活動であるが、継続的に行うことで、確実に生徒のスピーキング力はつく。

#### ⑥わかりやすいタスク

現行版の Get More Informed は内容的に面白かったが、正直なところどう扱ってよいかわからない部分もあった。改訂版では、新しく刺激的な題材もさることながら、内容把握の確認がしやすいタスクで活動がしやすくなっている。

#### ⑦生徒の作品を教材に

Write a Paragraph は今までと同様にやっていきたいが、今度は生徒の作品を題材にして scanning や listening, interaction の教材を作りたい、と考えている。

#### ⑧これさえあれば何もいらぬ

現行版をもとに + $\alpha$  の活動を作るのは楽しかったし、改訂版でも料理人の心につける素地は十分にある。しかし、日々の雑務に追われる中で全てのレッスンでそれを行うのが難しいのもまた事実である。その点改訂版は、この教科書をこの流れの通りに行えば、有機的な活動を4領域全てに渡って行うことができる。あとは、刺激を受けた生徒の創造力を楽しむだけ、だと思う。

\*

新カリキュラム元年の生徒達も受験生になった。大学受験が全てではないが、やはりここで結果が出ないと3年間の指導の意味が問われるのが現実である。年々自由英作文を課す大学が増えてきているが、添削指導が今までよりスムーズになっている感じがする。彼らの健闘を祈り、最後まで伴走したい。

(かとう みえ・岐阜県立斐太高等学校教諭)